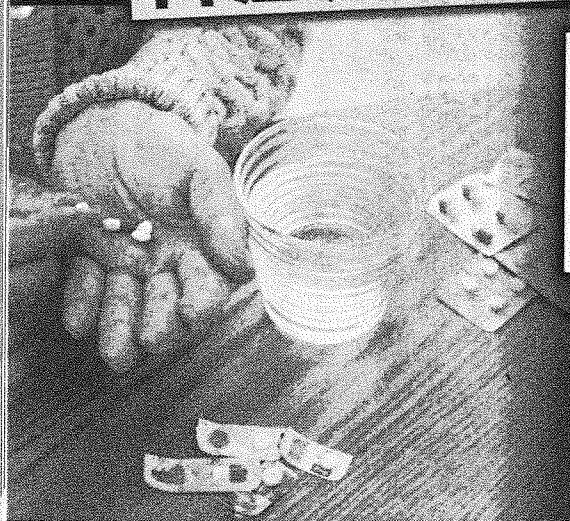


〈大反響第2弾! 人生100年時代の不都合な真実〉

降圧剤を飲むと脳梗塞リスク2倍

胃薬で胃

がんリスク8倍 ほか衝撃データを大公開



「薬と病気」



言っではいけない本当の話

前号では60歳からの「言っではいけない」と題して「お金・働き方」「人間関係」などを巡る、不都合な真実を、示すデータを特集した。世間で信じられている常識とデータが相反する結果を示していることが多いのが「薬と病気」を巡る話である。本当のことを知らないのは、患者だけ――。

医者は保身で処方する

薬を飲むことで健康になれる――そんな「常識」をただ真に受けていると大きな落とし穴が待っていることがある。毎日たくさん薬を飲む患者にとっては、その効果を信じ続ける生活のほうが居心地がいいが、自らの将来の健康を考えるなら、「不愉快な真実」にも目を向けなくてはならない。

医療経済ジャーナリストの室井一辰氏がいう。「医師は治療するという立場だから、薬の副作用について十分に説明できなかつたり、最新の研究で新たにわかったリスクについて把握していなかったりする。効果が限定的だったりする

場合もあります。そうしたリスクなどについて患者が十分に理解しないままに処方されているケースがあるのです」
都内の勤務医は実情をこう明かす。
「どんな治療もリスクを伴うので本音では様子を見た場合でも、患者からは『どうして薬を出してくれないんだ』とクレームが付くことがある。手を抜いたと思われるのは少しでも避けたいので、薬を処方するという結論になることはあります」
では、患者が知っておくべき「薬と病気の真実」には、どんなものがあるのか。

降圧剤を飲んでる人は脳梗塞リスクが2倍になる

生活習慣病のなかで最も患者数が多いのが高血圧症だ。厚生省の調査(17年)

によると、患者数は993万人にのぼる。血圧が高くになると全身にはりめぐらされた血管の動脈硬化が進み、脳梗塞や脳出血、心臓肥大や心筋梗塞など重篤な合併症を引き起こすリスクがあり、これを防ぐため実に70歳以上の4割が降圧剤を服用している。

しかし、病気を防ぐはずの降圧剤によって「脳梗塞の発生率が2倍になる」というデータがある。

07年に論文をまとめた東海大学医学部名誉教授の大

榊陽一氏が説明する。

「高血圧症と診断された脳卒中患者1万5504人と一般住民2万2227人を対象に、降圧剤を使った治療を受けた人とそうでない人とを比較しました。すると、降圧剤を服用した人は、しなかった人と比べて59歳以下では平均2・1倍、60歳以上では平均2・3倍も脳梗塞を起こすリスクが高くなっていったのです」

この結果について秋津医

院院長の秋津壽男医師(内科)はこうみる。
「血圧を下げるすぎると血流が悪くなって血栓が詰まりやすくなり、脳梗塞リスク

毎日、5種類も6種類も

薬を飲んでるあなたは、

この現実を直視しなくては

ならない――

が増加することが知られています。家で測定するよりも病院で測定するほうが数値が高く出やすい「白衣(仮面)高血圧」は高齢者に多いといわれています。この論文の結果は、降圧剤自体が脳

高脂血症治療薬を飲んだ 75歳以上で死亡率が3割増

前出の厚生省調査で220万人の患者数があると推計される「脂質異常症」。心筋梗塞などにつながると思われるこの疾患の治療薬にも直視すべきデータがある。体内でコレステロールを生成する酵素の働きを抑える「スタチン」と呼ばれるタイプの薬がよく処方されるが、服用により死亡率が上昇するというのだ。

前出・室井氏が解説する。「17年、アメリカの医学誌『JAMA Intern al Medicine』に掲載された約2800人を調査対象にした論文で、スタチン系薬剤を使用した人は、生活指導だけを受け

た人に比べて死亡率が18%高く、75歳以上では34%も高くなったと報告されています。この論文によれば、スタチンを使うとコレステロール値は下がるものの、心臓病リスクは減らず、死亡率が高くなるというが、詳しい原因は解明されておらず、現在も研究が進められています」

硬塞を引き起こすというより、過剰に処方されてしまつて低血圧に陥る人が多いということではないでしょうか。安易に薬に頼らず、生活習慣の見直しをまず徹底することが肝要だ。

胸焼けに処方される 胃腸薬で胃がんリスク8倍

胃薬にも知っておくべき研究結果がある。17年に香港大学が6万人超の患者を対象に研究した論文によると、胃酸分泌抑制剤のひとつであるプロトンポンプ阻害薬(PPI)を3年以上にわたって服用している患者は胃がん発症率が8・3倍も多いと報告された。1、2年の服用でも胃がん発症率が5・0倍、2、3年で6・6倍となっている。

PPIは逆流性食道炎などの治療に使われる薬だ。逆流性食道炎の患者は近年急増しており、30年前に比べ罹患率は10倍、予備群を含めると患者は1500万人いるとされている。

抗認知症薬で効果があるのは 7人に1人しかいない

一度症状が進行すると、改善は難しいとされる認知症。そのため、早期に治療を開始して少しでも進行を遅らせることに重点が置かれている。日本神経学会が定める「疾患診療ガイドライン」では非薬物療法とともに抗

認知症薬の使用が推奨されている。実際に日本では65歳以上の5・1%、85歳以上の17%に認知症治療薬が処方されているが、その効果は限定的だという。認知症治療薬の有効性についての臨床試験結果を分析した兵庫県立ひょうごこ

ころの医療センターの小田陽彦認知症疾患医療センター長の研究でも、認知症薬により「高い効果が得られた」患者の数は40人に1人。「多少は効果がみられた」患者でも7人に1人程度だったという。

「認知症治療薬には、副作用として便秘や下痢、吐き気、眠気、ふらつき、めまいなどが現われることがある。また、稀ですが肝機能障害や不整脈なども引き起こす場合もあります。」

それらのリスクと、得られる効果のバランスを勘案した結果、フランスでは昨年8月にそれまで認められていた4種類の認知症治療薬すべてが保険適用から外

インフルエンザ予防接種が 罹患リスクを上げる?

流行シーズンを控え、ワクチンが品薄になる予想も出ているインフルエンザだが、その予防接種がかえって感染するリスクを高めているという報告がある。11年、オランダのエラスムス・

メディカルセンターで行なわれた研究だ。平均6歳のワクチン未接種の子供27人と、毎年インフルエンザワクチンを接種する子供14人を比較したところ、未接種のグループの

罹患率が高かった。これは、ワクチン接種による免疫反応が、逆に感染を引き起こす可能性があることを示唆している。ただし、この研究は小規模で、大規模な研究が必要だ。

製薬会社から的高額接待を受けている医師がいる

医師は、それぞれが所属する学会が定めたガイドラインを参照しながら患者への治療方針を決めるのが基本だ。そこには処方すべき薬剤の優先順位も記載されているが、ガイドラインを策定する立場にある学会理事の医師らに対し、製薬会社から多額の謝礼が支払われていることがある。

「知ってはいけない薬のカラクリ」著者で、ナビタスクリニック川崎の谷本哲也医師がこう明かす。「私が医師になりたての2000年ころは、製薬会社の担当者から高級料亭での接待に連れ出されることも珍しくありませんでした。いまでは規制がかかるようになりましたが、それでも製薬会社が講演会を開き、医師らに1個2000円ほどの弁当を用意するなどして歓待しているのです。アメリカで行なわれた研究では、製薬会社から提供を受けた食事代が20ドル(約2200円)未満だったとしても、医師はその会社の薬の処方率を増加させていたと報告されています」

世界的には、医師と製薬会社のカネの流れを明確にする方向にある。だが、日本は遅れているという。「アメリカでは10年に、製

されました」(長澤氏)では、日本ではリスクと効果のバランスをどう判断すればいいのか。神奈川県科大病院附属病院の認知症・高齢者総合内科教授の眞鍋雄太医師が話す。「認知症学会が認定した認知症専門医は2000人ほどしかおらず、多くの人が非専門医の診察を受けている。訓練された専門医であれば認知機能を多角的に評価可能なため、薬の効果が出ているかどうかを的確に判断できたり、安易な薬物治療を避けたりできるでしょう。脳神経内科を掲げる医療機関を訪ね、可能なら認知症専門医の診察を受けてほしい」

薬会社や医療機器メーカーに対して、医師に支払った謝礼の記録の報告を義務化する法律が制定されました。集計されたデータは国民に公開されています。一方で、日本ではそういった法整備はされていない。そこで、私が所属するNPO「医療ガバナンス研究所」とジャーナリズムNNGO「ワセダクロニクル」が共同して独自調査を行なった結果、2016年に製薬会社から謝礼を受け取っていた医師約9万8000人のうち、2000万円以上の謝礼を受け取っていたのが9人、1000万円以上だと111人いることが判明しました。ガイドラインの策定にかかわるような権力を持った医師に謝礼が集まれば、薬との付き合い方は良い方向に変わっていく。

医師にいわれることをただ信じるのではなく、患者自身がリスクを正しく知れば、薬との付き合い方は良い方向に変わっていく。

『週刊ポスト』次号(11月1日号)は10月21日(月)発売です

一部地域で発売日が異なります

韓国の教科書で「日本」はこう書かれている

「日本大使館前の慰安婦集会参加者にインタビューしよう」「独島のアシカは日本人の乱獲で絶滅危機」

何度でも読み返したい **快進撃!日本ラグビー** 「世界の讚美」

相撲協会が知らない **「角界と暴力」** その壮絶現場

松坂季実子 伝説の巨乳と喘ぎ声が魅惑する

1969年生まれアイドル「お宝ピキニ」

8人の美女湯

2人に解禁スバイの乳首

袋とじ

Honey Trap 染谷有香

全品プレゼント! 47都道府県「ご飯のおとも」

秋のスーパープレミアム合併号

2019 Oct. 10.18/25 特別定価480円

社長を辞めたワケから「剛力彩芽との結婚」まで独占告白70分

ZOZO前澤友作 インタビュー 「僕、なんで嫌われちゃうの?」

10・22 即位の礼 新天皇・皇后両陛下と寿ぐ「令和の時代」 世紀の晴れ舞台を写真と図解で詳細ガイド

パレード観覧 スポット & 皇居の秘境「お散歩マップ」

有働サカトパンに何が起きた!? 好き&嫌いな女子アナ(表紙)に大異変

死ぬほどSEX 私は「この一言」で、あの女と肌を重ねました 体験集

「リフォーム」のポイントはこちら「長生きする家」「早死にする家」の特徴

親のせいで、妻のせいで、子のせいで

自分破産」しないために

老後の想定外の出費は「家族リスク」が9割!

親への出費 介護保険が使えない費用を「1割負担」で済ます方法

妻への支出 パート妻の働き方を間違えて「年金大減額」こう防ぐ

子への負担 自立できない息子・娘を「扶養家族」にすべきか否か

消費増税やつぱり大混乱?「ポイント還元」という国家の罠

言っではいけない「薬と病気」の話 胃薬で胃がんリスクが8倍に?!

萩本欽一、内海桂子が17人が「寿影(生前遺影)」とともに語る

私が望む「幸せな逝き方」

最新版を入手して徹底検証

この制度と手続きで備えましょう